



“悪魔”と私

約30年間、東京でメディア関係の仕事にどっぷり浸かっていた私は、2004年に日本を離れ数年間の放浪生活を経て、アメリカは中央カリフォルニア海岸近くの牧場で暮らすようになった。ここ、サンルイスオビスポ・カウンティ（サンルイスオビスポ郡）は、観光、世界レベルのワイナリー、農業、畜産業や漁業で知られている。

自給自足の生活を求めてやって来た私は、毎日が幸せでいっぱいだった。「わー、ここはエデンの園!」土地は美しく、空気も、ここで育てた食材も美味しい。水不足の州でもここはいい水が豊富だった。でも、エデンの南には地獄があったのだ。その名も「悪魔の谷」ディアブロ・キャニオン原子力発電所(DCNPP/DCPP)。「ディアブロ」はスペイン語で「悪魔」という意味。

原発や核産業のことは何も知らなかった。「牧場から10キロ近くに原発があるの? 嫌だなあ。でも、地域の活動家と一緒に、閉鎖を求めればいいんだよね?」と気軽に考えていた。2011年3月11日までは。福島第一原発事故で目覚めさせられた私は、4月に地元で行われたデモに参加し、主催者の『マザーズ・フォー・ピース』で活動を始めた。

Report

“悪魔”と私 —— ディアブロ・キャニオン原子力発電所

寄稿

キャロル久末

作家／アクティビスト・『マザーズ・フォー・ピース』スポークスパーソン

FMラジオのパーソナリティーなどで日本で活躍したのち、アメリカに移住したキャロル久末さんに、ディアブロ・キャニオン原発と反対運動について寄稿いただきました。福島原発事故を経てもなお原発をやめない日本。さて、アメリカは?

ディアブロ・キャニオンの問題

ディアブロ・キャニオンは国立公園にする案もあった未開発の土地で、原住民チュマッシュ族の聖なる墓地でもあった。地には千年も生きてきた古代オーク、岩礁は豊かなアワビの生息地、海には数えきれないほどのラッコたちなど、自然の宝箱だったが、地盤が不安定だった。ホスグリ断層の存在は地質学者によりすでに測定されていたが、DCNPPが完成した1973年にやっと報じられた。

不安定な地盤の問題だけでなく、DCNPPには冷却塔がない。冷却用に海水が使われ、使用後、高温のまま排出され、海洋生態系に悪影響を及ぼしている。さらには、世界中の原子炉と同じようにDCNPPの原子炉も古く、もろくなっている。トリチウムの放出は当たり前。「安全」に稼働していても、放射能はいつも漏れている。

DCNPPは全米で一番問題の多い原発の一つだ。機械的問題は絶えない。水圧系の漏れ、火災。小型飛行機の墜落、従業員のハラスメント、安全ルールの違反、放射能漏れ、冷却ポンプの故障、運営ミス、オーバーヒート... ぎりが無い。そして、誰もが気にすべき地盤の問題。新しい調査でさらに5つの新しい断層が発見された。



巨大な反対運動

1977年5月にカリフォルニアでアパロニ同盟が誕生。1979年のスリーマイル島原発事故で、原発の安全性が広域で問われ始め、10日後にアパロニ同盟は大きなデモをサンフランシスコで主催した。翌月、サンルイスオビスポでもアクションを行い、5万人もの参加者が集まった。運動が一番盛り上がりつつあった頃は、実にたくさんの著名人もデモに参加していた。

それでも、さまざまな問題やスキャンダルを抱えながらも、紆余曲折の末1985年にDCNPPの運用が始まる。メディアは報道しなくなり、市民の関心も徐々に消え去る。サンルイスオビスポはPG&E(DCNPP)の運営者・パシフィック・ガス&エレクトリック)タウンとなっていき、依存していった。しかし、福島第一原発事故でメディアはまた原発に興味を示し、アンチニューク運動も刺激された。

DCNPPは福島と立地条件が似ているということで、我々も頻繁に取材された。私は、福島とサンルイスオビスポの共通点を指摘した。「福島のような事故があったらこのカウンティは台無しだ。美しい景色がそのままでも誰も遊びにこない。ワイナリーのワインは誰も買わない。農場や牧場は荒野に戻る。それでも、原発欲しい? 原発がなくなって電気が使えなくなっても、私は電気無しの暮らしに何とか馴染むわ。」



NO NUKES! ENERGY AUTONOMY!

記事の全文はこちらでご覧いただけます
<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=11485>



DCNPP廃炉決定!

2016年6月、PG&Eは労働組合や環境グループとの話し合いの結果、「現在のライセンス(運転免許)が切れる2024年(1号機)と2025年(2号機)に、DCNPPを廃炉にする」と共同提案を発表。カリフォルニア最後の原発がなくなる日がやってきたのだ! 共同提案はPG&E、労働組合、フレンズ・オブ・ジ・アース、環境保護団体Natural Resources Defense Councilと、地元のアライアンス・フォー・ニュークリア・レスボンシビリティ(A4NR)の話し合いで合意されたものだ。

面白いことに、PG&EはDCNPPの廃炉が決まると「廃炉顧問団」を公募し、結成。メンバーは一般市民だが、労働組合のリーダー、自治体の元役員、引退後サンルイスへ住むようになったNRCの元判事、チュマッシュ族のメンバー、隣町の元市長、マザーズ・フォー・ピースのスポークスパーソンでベテラン活動家などなど、興味深いラインアップだ。

マザーズ・フォー・ピースは今後も目を光らせ、DCNPPのできるだけ早いシャットダウンを求め続ける。廃炉が決まった後、安全性などがおろそかになるのでは? 古い機械やシステムは修復、交換されるのか? 2025年まで数年あり、何が起ころかわからない。今も毎日、熱くなった冷却水は海へ流れている。そして、永遠の問題、核燃料は? 活動家のやるべきことには終わりが無い。



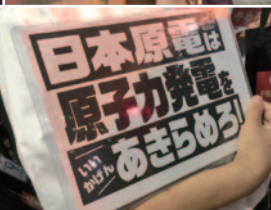
参考:『マザーズ・フォー・ピース』公式HP
<https://mothersforpeace.org/>

On The Road

— Photo —

金曜官邸前抗議! ☆ Diversity!

2012年3月から続く金曜官邸前抗議には、毎週さまざまな人々が参加しています!



Walk and Talk it

東電が日本原電を支援する矛盾 —— 映画『ほんち』



→市川崑監督『ほんち』で、河内屋足袋店の跡取り喜久治(市川雷蔵)は祖母と母に評価されない存在だった。喜久治は商才もありヒット商品も出したが女達は「商は男の仕事」と関心を寄せない。河内屋の女にとって「成功」といえるのは「女の子を産んで婿に商をやらせ女は家を守る」ことで、男である以上喜久治は「失敗」なのだ。祖母きのはいう。「男の子は生まれた通りのでき具合やけど、おなごの子やったらできのええ男を婿養子に貰う手がおます。河内屋が栄えたのは三代おなごが続き間違いのない養子をとったさかいだす」。

→原発のみの卸電気事業者である日本原電は原発の

稼働がなくなった2011年に潰れるべき企業だった。が、東電等から毎年1000億円以上の電気料金収入を得て(2017年度、東電から約520億円)まだ存在している。国が東電を支援し、東電が日本原電を支援しているのだが、国や東電の当事者でその合理性を説明できる者は果たしているのだろうか。女の子を産めたきのは不可思議な理屈で河内屋の「仕来り」を語っているが、「仕来り」はそれが「仕来り」だから、それ以上の意味を本来的に持っていない。東電が被災者への賠償を値切って日本原電を支援する矛盾。割を食っているのは被災者や税金を払っている私たちだ。(TH)

RECORD THE POWER OF THE PEOPLE!



2012年11月11日(日)

11.11 反原発 1000000人大占拠 主催:首都圏反原発連合

衆議院解散が囁かれる中、『さようなら原発1000万人アクション』『原発をなくす全国連絡会』なども協力し、官邸前、国会前の10万人規模の抗議と、経産省ほか8カ所で永田町・霞ヶ関一帯同時多発抗議をしました。翌月、民主党が大敗し自民党安倍内閣が誕生。

当初はデモ行進も予定してましたが、東京都が日比谷公園の使用を認めず、デモ申請を行うことができない事態となり、都を相手取り東京地裁、高裁で訴えましたが、敗訴。司法の判断は表現の自由を奪うものとなりました。

編集後記

再エネが伸びる九州で、九電が全国初の再エネの出力制御を実施。政府は原発の稼働を優先させているが、カットすべきなのは原子力発電。また、政府はFITについて、事業用太陽光発電の買取額を半額にすると決定。再エネ事業を衰退させ原発推進するための妨害、政策障害が酷すぎる。

国民民主党の野党で次の内閣を作る提起について、立憲民主党の枝野代表が「原発政策で一致できない」と難しい。「原発ゼロ法案」に賛同してもらえるかどうかが大変重要」と述べました。レームダック・安倍政権の次は脱原発政権だ!